

立ち読み版



小松ばね工業株式会社 代表取締役社長

こまつ まきこ

小松 万希子さん

1968年、東京都生まれ。学習院大学卒業後、計測機器メーカー勤務を経て、2003年、小松ばね工業に入社。社長である母の仕事を手伝いながら取締役を経て、2014年に代表取締役社長に就任。国の産業構造審議会のメンバーも務めている。

【写真】安岡 嘉



小松ばね工業株式会社 会長

こまつ せつこ

小松 節子さん

1940年、東京都生まれ。跡見学園短期大学卒業後、結婚し、主婦業に勤しむが、養女となった父の急逝を受け、1984年に小松ばね工業株式会社の代表取締役社長に就任。現在、同社の会長を務めている。2017年、中小企業振興功労として叙勲「旭日単光章」を受章。

母娘2代の女性経営者が率いる テクノロジーカンパニー

【取材・文】原 正紀

株式会社クオリティ・オブ・ライフ代表取締役、株式会社スマートバリュー（東証一部上場）社外取締役、高知大学客員教授・経営協議会委員、成城大学非常勤講師、中小企業診断士。早稲田大学卒業後、株式会社リクルートを経て起業し、人材ソーシャルビジネスを展開。著書「定年後の仕事は40代で決めなさい」（徳間書店）、「採用氷河期」（日本経済新聞出版社）、「インタビューの教科書」（同友館）など多数。

HARA'S
BEFORE

ものづくり技術の集積地、東京・大田区にはキラリと光る要素技術を持つ中小企業が数多い。1941年に創業し、ばねを製造している小松ばね工業も日本の精密機器を担っている会社である。2代にわたって女性経営者が活躍していることでも知られている。事業承継というテーマも含めて、会社を牽引する母娘に話を伺った。

44歳の主婦が女性社長に

原：小松ばね工業といえば、超精密なばねの製造技術で知られています。会社の現状や強みについて、改めて教えてください。

万希子：当社は、細い小さいばねを専門にして頑張ってきました。0.02～2.5mm程度の材料を使って、ばねを作っています。すべて受注生産で、試作して納得いただいたら、量産するパターンです。ばねの種類は4つに分けられますが、コイルバネが最も多いですね。コイルバネとは、材料をらせん状に巻いたものです。当社の製品は、機構部品や通信機器など、カメラではレンズ周りやシャッター、身近なところでは文房具にも使われてきました。ただし、最近では電気部品が少なくなっています。たとえば、家庭のブレーカーもスマートメーターで電子表示されるようになって、使われるばねも少なくなりました。一方で、カメラ業界から拡張している医療業界にはさらに市場開拓できるのではないかと力を入れています。リーマン・ショックで業績が大きく落ちた後に、取引先の調達も海外にシフトしてしまいました。今後は海外市場にも力を入れていきたいと思っています。

原：会長が、この会社を運営するに至った経緯をお聞かせください。

節子：創業者には子供がいなかったため、姪の私

が養女になったのです。そして、創業者が亡くなった後、相続で株式を取得しました。その後、後継問題が起こり、古参役員に担ぎ上げられて社長に就任しました。44歳まで主婦をやってきただけで働いたことがなく、名前だけの社長でした。ところが、会社は古参役員たちの経営で売上が下がっていったにもかかわらず、何か手が打たれる気配はありませんでした。当時、参加したセミナーで「会社が潰れたら責任を取るの社長一人」と聞き、これは人に任せておくわけにはいかないと、経営に取り組みました。当時から仙台に工場がありましたが、業績を拡大できず、秋田県に工場を2カ所設置し、その後はインドネシアにも設立するなど海外に進出しました。

原：働いた経験がまったくない中で、会社を運営することは大変だったと思います。

節子：一倉定先生のセミナーに10年くらい通い、学んだことを全部吸収して実践していきました。一倉先生は赤字の会社を立て直し、5,000社以上の企業を指導したと言われる経営コンサルタントの方です。最初は営業のこともよくわかりませんでしたが、「お客様のところに行きなさい」、「注文を取れなくてもよいから、ご挨拶をしてきなさい」、「自分や会社の行き届かないところを聞いてきなさい」と指導され、お客様の意見を聞き、改善することを繰り返しました。何度も何度もやりましたが、社員は、最初は私が同行するのは嫌がりましたね（笑）。「担当者を